一人一人が 安心して 自分のよさを発揮できる学校

今成小だより

令和６年７月１日発行

トップアスリートに学ぶ

今年の２月７日、土江寛裕コーチをはじめ東洋大学陸上部（短距離部門）の皆さんが来校されました。**川越市トップアスリートふれあい事業**のためです。とても明るく気さくな皆さんで、今成小の学校教育目標の前でポーズをとってくれました。

４～６年生の授業では、速く走るコツを伝授し、本物のアスリートの走りを何十回も見せてくれました。近距離でスピードを体感し走法を教えてもらって「走るのが速くなった気がします」と話す子どももいました。

それから３か月後の５月、**ナッソー2024 世界リレー**が行われ、男子４×100mリレー日本チームのオリンピック出場権獲得が報道されました。テレビには、日本陸連ディレクターとして土江さんが、また、第２走者には柳田選手の勇姿がありました。実際に来校し、関わっていただいた方々が世界で活躍する姿から、子どもたちは何か大切なものを感じ取るのではないでしょうか。今後、お話集会などでこのことを知らせ、みんなで応援するムードを醸し出していきたいと思います。

トップアスリートの生き様に学ぶ

2004 年アテネ・オリンピックのことです。男子４×100ｍリレーの決勝に進んだ日本チーム。第１走者はスタートのスペシャリスト、土江寛裕選手（２０年前の土江コーチ）でした。極度の緊張とスタート機器の影響でベストタイムより約 0.2 秒遅れてしまいました。その後バトンは末續選手、高平選手、最終の朝原選手へとつながり、見事４位入賞を果たします。当時の日本最高位でした。しかし…。

「銅メダルのチームとの差は 0.2 秒。僕の責任でメダルを取れなかった。」

土江さんは、その後どれほどの苦しみを味わったのでしょうか。あの明るいお人柄からは想像がつきません。そして、引退後はどんな思いで選手たちを導いてきたのでしょうか。そこには本当の「心の強さ」というものを感じます。

世界中のアスリートたちが躍動する**パリ 2024 オリンピック・パラリンピック**が今月末から順次開催されます。今年の夏も暑くなりそうです。

ほめて認めて、叱って諭し、また、ほめて伸ばす